

## 笑顔と感謝

### ビーンズ 管理者 杉本 伸一

グループホームビーンズ  
に施設長として配属され、  
早1年が過ぎました。

グループホームでは昨年  
の着任時から高齢化による  
問題を感じていましたが、  
昨年度60歳になったばかり  
の利用者から、入浴に関  
して高齢化による具体的な  
問題が現れました。



それまでは一人で浴槽を跨いで湯船に浸かること  
ができていましたが、秋口から足腰の衰えて浴槽を跨  
ぐことが困難になられました。そういえば…好きな  
入浴時に笑顔がなくなっていたなと思ひ起こします。

支援員の介助で湯船に浸かる事は可能でしたが、で  
きるだけ一人でのんびり入りたいという思いを持た  
れていたのでは、笑顔がなくなっていたのでしょうか…。

支援員はできる限り希望に添えるように、始めは浴  
槽のふちに付ける手すりの購入を進め、カタログを見  
て取り寄せても設置に不具合あるなど、返品・交換を  
行いつつ、なかなか状況を改善する事ができず悩んで  
いた中、介護保険利用の助言をいただき、検討をはじ  
めました。

各所へ相談し、認定調査を受けたところ、要支援2  
という結果になり、介護予防サービスで福祉用具購入  
助成とレンタルの助成が可能になりました。

専門業者へ依頼すると的確に良い物、使用しやすい  
物を用意してくださり、費用も1割負担で済み、当初  
の手すりだけの購入費用よりも手すり、スノコ、踏み  
台の3点合わせた負担額のほうが安くなり、3点を使  
用することで再び独りで入浴を続ける事が可能にな  
りました。

そのときに笑顔で「ありがとう」と言ってくださり、  
入浴場面での笑顔も見られるようになりました。その  
笑顔と「ありがとう」の言葉で報われた気持ちになり、  
この職業に就いてからの色々な笑顔の場面を思い出  
しました。

就職1年目で利用者の笑顔で挫折しかけた気持ち  
が持ち直したこと。また、1年目に利用者で行った屋  
外でのテント泊まりのキャンプで一睡もできなかった  
けれど職員みんなが笑顔だった事などなど。思い出

したら切りがありません。

支援の根本は笑顔です。笑顔は相手を微笑まし、し  
かめっ面は相手に不快感を持たせる。利用者の笑顔が  
いつでも見られるように、そのためには支援員がいつ  
も笑顔で仕事をする。支援員がいつも笑顔で仕事が  
できる環境は我々管理者が作らねばなりません。そして、  
感謝の気持ちも大切です。ちょっと手伝ってもらった  
とき、道を譲ってくれたとき、何かを手伝ってくれた  
ときなど笑顔で“ありがとう”“ありがとうございます”  
と言うと相手は嫌な気はせず、和んだ雰囲気にな  
ります。ただ、態度やしぐさでは感謝の気持ちは伝  
わりにくいので、“ありがとう”と言葉で伝える。

職員みんなが“いつも笑顔”で“感謝を伝える”が  
できる環境になるように自分自身のモチベーション  
を上げて28年度もがんばりたいと思います。

## 会員交流会を開催しました

3月は、1月に続き、会員交流会として第2回「茶  
話会」を開催しました。

今回も25名の会員の皆様にご参加いただき、今後  
の育成会活動についてのご意見やご希望をお聞かせ  
いただきました。様々なご意見がありましたが、やは  
り一番多かったのは、将来の暮らしの場の不安につ  
いてであり、頂いたご意見としては、次のようなもの  
がありました。

- ・支部会員が減り、親の高齢化が進む中、親子が  
一緒に生活支援を受ける事ができる施設がほ  
しい。
- ・高齢者と障がい者が、同居できるグループホ  
ームが理想。

これらのご意見には、できれば自分の目の届く範囲  
で共に生活したいという親としての想いが表れてい  
ました。

- ・入所施設を希望しているが、待機待ち人数が多  
く、なかなか入れない現実がある。
- ・グループホームの利用も考えてはいるが、空き  
のある事業所数が少なく、入れたいと思うとこ  
ろがない。

参加された多くの方は、将来の住まいについては、  
不安を抱いておられるようでした。そのような中、次  
のような前向きな意見もありました。

- ・グループホームについては、誰かがやってく  
れるのを待つのではなく、親が積極的に設立に携  
わり、例えば世話人を担うなどして運営をやっ  
ていくのが現実的でないか。